

運動学・バイオメカニクスの授業評価・授業研究報告書

保健体育講座・福田 隆

1-1 授業の概観

本授業は、1年前期に開講する科目であり、保健体育専修・スポーツ健康科学課程の必修科目である。受講学生数は、37名であった。

1-2 授業の目的：

身体運動・動作研究をする場合の観察法や分析法の基礎を学習する。運動学・バイオメカニクスにおける基本的な知識を正しく、論理的に理解する。体育の基礎理論であり、必修授業として学ぶ。

1-3 授業の到達目標：

1) (知識・思考)

・運動学・バイオメカニクスにおける基本的な知識を正しく理解し、論理的に説明できる

2) (技能・表現)

・スポーツ・身体運動を分析する場合、分析方法や分析の観点を選択できる

3) (意欲・関心・態度)

・スポーツにおける技術を科学的側面から観察することができる
・スポーツの未熟練者に適切な指導ができる

1-4 授業の概要：

学問としての運動学・バイオメカニクス成立の歴史的背景、自然科学との関わり、運動技術や運動技能の習熟過程における情報論的考察や運動学からみた動作・運動・体力及び身体運動の動作分析・考察方法などについて講義する。

2 授業評価法

授業の評価は、授業内容に対する試験の結果と小テストと最終テストのときに実施したアンケートの結果によって行った。学生アンケートの形態は、自由記述型のものとして幅広く学生の評価を得ることを目的とした。

3 授業評価結果

(1) 今年度もスライドを利用した説明を多く取り入れたが、理解しやすかったという肯定的な意見に対し、ノートがとりにくい・眠くなってしまふ等の否定的な意見もあった。一昨年度の反省に

基づき、連続してスライドを用いる時間を調整したり、説明方法を工夫したり、ストレッチタイムを入れるなどして、集中力の低下を防ぐことに工夫を試みた。この結果、多少改善が見られたと思えるが完全に問題が解決されたわけではない。この点についての改善方法については今後のさらに課題として検討していきたい。

(2) 授業の資料としてプリントを配布しているが、今年度は人体の骨格に関する授業のときに骨格模型を利用して説明を行った。模型を導入することにより、学生の骨格に関する理解度は非常に向上した。ペーパー資料の平面的な表現よりも、立体的に骨格を説明した方が、骨の接合部分や太さ・位置関係等の理解に大きな効果があると思われる。また、直接模型を触ったり、動かすことにより好奇心が湧き、理解度が高まったと思われる。アンケートの結果からも多くの学生から、模型を利用した説明は、骨格を理解するうえで非常に有効であったことが分かった。今後、学生が何時でも模型に触れられる環境を整えることが必要であると思われる。

(3) 授業中に小テストを実施している。良い印象を受けていない学生もいたが、身体の骨格など正確に覚えなくてはならない内容については、「目標をもって正確に学習することができた」との高い評価も受けている。テスト内容を講義前に知らせることにより、授業中の意欲向上とともに、理解度を正確に把握することができた。

4 まとめ

今年度は、体育を専攻する学生以外に、他の専修学生が2名、他学部の学生が2名受講してくれた。しかし、残念ながら他学部の2名は、最後まで受講できず、途中で断念することとなった。この原因として、保健体育を専攻する学生のクラスにおける、彼らの学習環境を整えることの配慮が足りなかったと思える。このような状況になったのは、初めての経験であるため、今後この反省を生かした工夫をしていきたい。